



大切な時期を自分らしく

副校長 渋谷 正芳

朝晩の寒さが一段と厳しくなりましたが、毎日、校庭では大勢の子供たちが元気にびよびよん(縄跳び)期間に意欲的に取り組んでいます。

さて、先月に立冬、小雪を迎え、今、寒さが厳しさを増してきました。これから、大雪、12月22日の冬至が訪れ、来年の1月には、小寒(1月5日)、大寒(1月20日)となり、春の訪れをまつ1年中で最も寒い時季です。間もなく、その時季が終わり2月4日の立春を迎えます。立春といっても寒さが続きます。やがて、三寒四温となり、春となります。

春に花を咲かせる植物は、春がくるのを待ち遠しくしていることでしょう。これからの3か月余り、冬の寒さに耐えるからこそ、美しい花を咲かすことができるのです。

植物のことを調べていると興味を引く実験が掲載されていました。それは、

「春の球根の水栽培を行う時に、必ず冷蔵庫に球根を入れて『春化处理』させてから水栽培を始める。もし冷蔵庫に入れなかったらどうなるのだろうか?」と思って、実験した記事でした。

実験方法は、春の球根の水栽培を行う時に、冷蔵庫に入れた球根と、屋外より少し暖かい地下駐車場にそのまま置いた球根を用意して、一緒に育て比較していきます。結果は、生長に大きな差が出ました。



(左図:左が駐車場、右が冷蔵庫)

春咲きの球根は冬の低い温度を体験しないと、花芽をつけない性質があります。今回実験して分かったことは・・・

- (1) 2～3か月冷蔵庫に入れて寒さに長く当たった球根は、暖かい場所に移すと生長のスピードが速くなる。
- (2) 球根は寒さに長く当たると、花が早く咲く。

～「LOVEGREEN 編集部」のHPより抜粋～

生命の息吹を感じる春、4月。そのためには、厳しい寒さが必要となります。自然界にいる私たちにも言えることではないでしょうか。

私たちも、新たな気持ちで意気揚々と進級・進学 of 4月を迎えるために、これからの3、4か月の時期は、しっかりとやるべきことをきちんと行い、困難にも負けず、挑戦し続けていくことが「春化处理」ではないでしょうか。「冬」は、すばらしい「春」のための充電と鍛えのときです。必ず春は訪れます。

また、人によって訪れる冬の時期や期間は違いますが、厳しい課題や困難に負けることなく、全児童に自分らしく、すてきな花を咲かせていけるよう、教職員一同、子供たちに寄り添いながらの指導・支援に努めてまいります。

展覧会 「ひらめく きらめく 個性よ花咲け 展・覧・会」 ご来場ありがとうございました。



11月19日(金)、20日(土)に、展覧会が行われました。会場には、各学年の個人作品の他、学年共同作品が展示され、643名の方に、ご来場いただきました。どの作品も、仕上がるまでには、子供たちは手に絵の具がついていることも忘れるほど試行錯誤しながら制作活動に一生懸命でした。当日、多くの保護者の皆様に鑑賞していただき、子供たちの力作は、見事に花咲くことができました。ご多用の中、ご来場いただきありがとうございました。また、たくさんのご意見・ご感想もありがとうございました。今後も、子供たちのエネルギーが感じられるように教育活動の充実に努めてまいります。